

## 第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アスク山下町保育園（4回目受審）
経営主体(法人等)	(株)日本保育サービス
対象サービス	児童分野 認可保育所
事業所住所等	〒231-0023 横浜市中区山下町27番地スタイリオ山下公園ザ・タワー2F
設立年月日	平成22年4月1日
評価実施期間	平成26年 6月 ~平成26年11月
公表年月	平成27年 4月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<b>【施設の特徴】</b>	
<b>・立地上の特徴</b> アスク山下町保育園は、みなとみらい線「元町・中華街駅」から徒歩2分、18階建のマンションの2階にあり、平成22年4月に開園されています。定員60名（現在64名在籍）で、近隣には山下公園をはじめ、いちょう並木や横浜港などがあり、子育て応援商業施設（コンビニエンスストア）では毎月1回、園から出向いて「りんく広場」を開催し、地域の人への子育て支援を行っています。	
<b>・多彩なプログラム</b> 設置法人の専任講師によるリトミック、体操教室、英語教室、クッキング保育があり、体を動かして協調性や集中力を養い、楽しい歌や絵本を通じて英語に親しんだりしています。	
<b>【特に優れていると思われる点】</b>	
<b>1. 保護者との積極的な交流・連携</b> 年2回の保育参観、参加の行事を行い、2～5歳児の誕生月に朝の会から給食まで一緒に過ごす保育参加を受け入れ、保護者が子どもたちと一緒に活動する機会を設けています。また、夏祭りの際は保護者の要望で子ども服のリサイクルバザーを開催し、その収益で紙芝居を園に寄付してもらうなど連携し、9月には子どもたちが祖父母を招待する「ふれあい会」の実施や、希望者にはハロウィンやクリスマスなどの行事を参観可能にするなど、積極的に家庭との交流を図っています。	
<b>2. 園外活動を通じた子どもの生活の充実</b> 0歳児から天気の良い日には毎日園外活動を取り入れ、地域交流で神奈川芸術劇場や大栈橋に出かけるなど地域を知る機会を積極的に設け、近隣の山下公園では、どんぐり拾いや、いちょうの葉を集め、蝉の抜け殻を見つけるなど自然と触れ合っています。また、子どもたちは手作りしたおにぎりと給食を持ってミニピクニックに出かけ、ボール遊びや砂遊びなどで1日楽しく過ごし、生活に変化を持たせ充実した活動になっています。	
<b>3. 園生活に関する情報提供</b>	

毎月のクラスだよりで子どもの面白エピソードを載せたり、3～5歳児クラスはその日の保育の様子を時には写真を添えてクラスノートに毎日記録し、保護者に情報提供しています。また、クッキング保育、お泊り保育、散歩、ペインティング活動など楽しい活動の写真を貼って保育の様子を知らせています。送迎時には、保護者に声をかけることを心がけて、子どもの様子を話しあえるような雰囲気作りに配慮し、0、1歳児の生活記録簿やクラスごとの申し送りファイルに記録して、送迎時に保護者に伝えています。

**【特に改善や工夫などを期待したい点】**

**1. 低年齢児が容易に取り出せるおもちゃの環境の充実**

0、1歳児の保育室は、クラスの間仕切りの棚の両面から共有のおもちゃを取り出していますが、それぞれ子どもの発達にふさわしいおもちゃを用意し、主体的におもちゃを取り出して遊べるよう並べ方の工夫が望まれます。また、衝立などで工夫し、子どもが小集団で落ち着いて遊べる場所の確保が望まれます。

**2. 新入園児受け入れ時の十分な配慮**

新入園児受け入れの際、慣らし保育を行い家庭との連携が図られていますが、1歳児では個別に主担当保育者が決まっていません。園での授乳やおむつ替えなど、できるだけ個別に担当する職員を決めて関わることを期待されます。

**評価領域ごとの特記事項**

**1.人権の尊重**

- 園の玄関に基本方針に沿った園目標「大切にしよう！元気なあいさつ・ありがとうの気持ち・のびのび育てよう！心とからだ」を掲げ、年度初めの職員会議で確認しています。
- 職員が子どもに注意をする場合は、感情的にならないように一呼吸おいてから子どもに分かりやすい言葉で伝えるように努めています。職員は子どもの人格を辱める保育を行っていないか、ケース会議や自己査定の際に振り返っています。
- 入社時研修で個人情報の目的や守秘義務について説明を受け、全職員が守秘義務に関して誓約書を交わしています。また、子どもの個人情報の取り扱いについて入園説明会や保護者会で説明し、子どもの写真については保護者から承諾を得て掲載しています。
- 保育の中で「女の子だから～」「男の子でしょ」など、性差を意識づけるような声かけをしないように年度初めの職員会議で共有して配慮しています。気になる言葉かけに気づいた際は職員間で声をかけ合って注意喚起しています。

**2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供**

- 保育課程は、「おおむね6か月未満からおおむね6歳」まで発達過程に応じて、理念・方針を実現するための保育の基本となるよう、子どもの最善の利益を最優先して作成しています。
- 乳児の様子から汲み取った意思や、言語化できる子どもの意見を取り入れて製作活動を行ったり、もっとやってみたいという気持ちを大切にして指導計画を見直し・変更し子どもの主体性を育てるようにしています。また、クラスによっては子どもにアンケートを取り、意見を聞いて計画に反映させています。

- クラスごとに一人一人の子どもの状況を話し合い、年間、月間指導計画、週案を作成しています。各指導計画は評価・反省欄を設け、見直しを行ったうえで次期計画につなげています。
- 0～2歳児や3歳児以上の課題がある子どもについて、月間指導計画に基づいた月間個別指導計画を子どもの状況に応じて作成しています。
- 子どもに人気の絵本を生活発表会の演目に取り入れたり、新聞をびりびり破って遊ぶ中で細長い紙を象の鼻に見立ててみんなで象さんごっこに発展したり、子どもの意見を取り入れながらルールを変化させるなど、子どもの発想を大切に受け止めて保育に活かしています。
- 走り回れる園庭がないため、天気の良い日は毎日散歩に出かけ、夏期にはプール活動を取り入れています。また、発達に応じた距離の散歩に出かけて公園で走り、遊具で遊び、ボール遊びや縄跳びをしています。1歳児から年齢に応じたリトミックや体操教室を取り入れて運動能力が高まるように工夫しています。
- 食事は必要摂取カロリーに配慮し全員に同量を盛り付けることを基本として年齢に合わせた食事時間を決めています。時間がかかる場合や好き嫌いなど、子どもの状況に応じて量を減らして完食する達成感を大切に援助をしています。また、苦手なものでも一口食べてみるように言葉をかけ口にしたときは褒めるようにしています。
- 午睡の時間は、眠れない子どもや眠くない子どもには無理強いせず、布団の中で静かに過ごし身体を休めるように対応しています。
- 活動の節目にトイレに誘うのを原則としていますが、職員は排泄には個人差があることを念頭におき一人一人の子どもの様子を観察してその子どもの排泄リズムに合わせて早めに声かけや促しを行っています。
- 0～2歳児は連絡ノートで園と家庭の生活状況の情報交換を毎日行っています。0歳児はよりきめの細かい記載内容で連携を図っています。また、3歳児以上のクラスでも希望者には連絡ノートを使った情報交換を行っています。
- 散歩先の公園では他園の子どもと日常的に交流し、5歳児は中区主催の「年長組あつまれ！保育園対抗駅伝大会」に参加し多くの園児と交流しています。

### 3.サービスマネジメントシステムの確立

- 入園前の説明会後に園長、保育士による面接を行い、必要であれば栄養士も加わり面接しています。また、面接時に子どもの様子を観察して、面談シートに記入しています。
- 入園前に保護者に記入してもらう書類などから生育歴や家庭の状況を把握し、個別にファイルし、保育に活かしています。
- 配慮を必要とする障がい児、アレルギー児、外国籍の子どもなどを毎年受け入れ、子どもの対応について、内部・外部の研修を受講し、職員会議で情報を共有するとともに、園内研修を行っています。また、設置法人の臨床心理アドバイザーによる指導、助言を全職員で共有し保育に活かしています。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 要望・苦情を受け付ける担当者は主任、苦情解決責任者を園長としており、入園時の保護者会で「入園のご案内」に基づいて説明しています。また、玄関に「ご意見箱」を設置し、年4回のクラス懇談会や面談、行事ごとのアンケートで保護者の意見・要望などを聞いています。</li> <li>• 乳児には職員がしぐさや表情から意思を汲み取り、保護者には送迎時の会話や連絡ノート、個人面談などで保護者が気軽に話せるように配慮し、思いを受けとめています。</li> <li>• 健康管理マニュアルに基づいて、子ども一人一人の健康状態を把握しています。入園前の既往症や予防接種状況は、入園時提出の健康調査票で把握し、入園後は毎年度初めに保護者に、健康調査票に記録漏れがないかを見直し追記をしてもらい、個人ファイルに保管して関係する職員に周知しています。</li> <li>• 地震などを想定して保育室のロッカーには耐震シートを施し、本棚や布団庫はネジで固定して転倒防止を講じています。ロッカーの上には物を置かないように努め、置く場合は滑り止めマットを敷いています。</li> <li>• 火災や地震を想定した避難訓練を毎月実施しています。また、一斉メールのテスト発信や災害用伝言板の訓練、保護者の引き取り訓練、広域避難場所である山下公園への避難訓練も行っています。</li> <li>• 不審者の侵入防止策として玄関はオートロックシステムを施してあります。職員はICカードで解錠し、保護者を含め外部の訪園者にはインターホンとモニター画面で確認後に開錠しています。避難ブース（非常口）は散歩時や避難訓練時など使用後の施錠確認は複数職員で行うことを周知徹底しています。不審者侵入時の合言葉を全職員が共有し、不審者対応訓練を年に1度実施して備えています。</li> </ul>
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 山下公園内にある子どもの遊具や遊ぶスペースを備えた、子育て応援商業施設（コンビニエンスストア）で毎月第3水曜日に「りんく広場」を開催し、パネルシアター・絵本読み・手遊び・製作活動などを提供しています。「りんく広場」で地域の親子と触れ合う中で地域の子育て支援ニーズを探り育児相談に応じています。</li> <li>• 園長が中区園長会議で得た情報をリーダー会議や職員会議で報告する際に、地域の子育て支援ニーズに関する情報を共有し話し合い、中区民祭り「ハローよこはま」では毎年1回、中区の園長会が主体となって子どもたちが製作をしたり、遊んだりするコーナーを職員が担当し市民と交流を図っています。</li> <li>• 日常的に公園に散歩に出かけ、5歳児のお泊り保育の際は近隣のスーパーに買い物に行き、ハロウィンの行事では文化施設やホテルなどを訪れ、多くの人と交流しています。散歩時は近隣の親子と挨拶を交わし、ドングリ拾いなどを一緒に行っています。また、横浜港に入港する大型客船の船内を見学し、山下公園では地域の親子と一緒に遊び友好関係を築いています。</li> </ul>
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 横浜市や設置法人のホームページで保育方針や行事などについて情報提供を行い、園のパンフレットを子育て支援拠点「のんびりんこ」や中区役所に置き、自由に持ち帰れるようにしています。</li> </ul>


	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 設置法人の就業規則に倫理規程、服務規程を明記し、職員が不正・不適切な行為を行わないよう入社時研修で周知しています。また、コンプライアンス委員会を設置し、不正があった場合の連絡先などを職員更衣室に掲示し、直接通報できる仕組みを職員に周知しています。</li> <li>• 環境に配慮し、夏まつりの際は保護者や子どもに箸やコップを持参してもらいゴミ減量化に努め、エコキャップの収集や空き容器、牛乳パックなどの廃材を利用した製作を行うなど、リサイクルに取り組んでいます。</li> <li>• 理念・方針・園目標を玄関に掲示し、職員全員に理念・方針を記載したパンフレットを配布して確認できるようにし職員会議などで周知しています。</li> <li>• 園長会やニュースなどの情報から得た改善すべき課題については職員会議やリーダー会議で改善策を話し合い、全職員に周知しています。</li> <li>• 25年度に全職員で中・長期の目標について話し合い、園目標や5年長期計画と中期計画を作成しています。</li> <li>• 設置法人代表は保育関連委員会に参加し、大学教授や専門家の意見を取り入れ、施設運営に活かしています。</li> </ul>
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実習生受け入れにあたっては職員会議で氏名や期間、実習の意義などをガイドラインに沿って説明し、実習に入るクラスなどを話し合っています。保護者には園だよりで知らせ、子どもたちには職員が説明しています。</li> <li>• 設置法人共通の理念・方針に基づき「保育士人材育成ビジョン」を作成し、新卒、途中入社や中堅、主任など階層別に研修を実施し育成しています。</li> <li>• 設置法人の担当部門が研修計画を作成し、職員が個別の研修計画を作成して必要な研修を受講しています。研修受講後はレポートを作成して職員会議で報告し、参加できない職員にはクラスリーダーが伝え、会議録を閲覧できるようにしています。研修内容はクラス運営に反映させています。</li> <li>• 個々の職員が年2回、「安全意識」や「保育力」、「研修意欲」など、階層別の査定項目をもとに自己査定を行っています。また、毎年受審する福祉サービス第三者評価の評価基準に沿って自己評価を行っています。</li> <li>• 設置法人統一書式の保育日誌や指導計画に、意図したねらいに対して一人一人の子どもの取り組み方がどうであったか、保育実践について自己評価しています。自己評価は目先の判断だけではなく、その日の子どもの姿から、子どもが意欲的に取り組んでいるか、活動の中でどう成長したかなどを記録して評価、反省を行っています。</li> </ul>

## 評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

### 評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人が策定した保育の理念、運営方針があり、園の玄関に基本方針に沿った園目標「大切にしよう！元気なあいさつ・ありがとうの気持ち・のびのび育てよう！心とからだ」を掲げ、年度初めの職員会議で確認しています。</li> <li>・保育課程は、「おおむね6か月未満からおおむね6歳」まで発達過程に応じて、理念・方針を実現するための保育の基本となるよう、子どもの最善の利益を最優先して作成しています。また、年度初めの運営委員会で保護者に説明しています。</li> <li>・保育課程に基づいて、前年度の各担任が年間指導計画を作成し、新年度担任は年度初めに子どもの状況を見て、年間指導計画を見直し・変更を行い、見直した年間指導計画をもとに月間指導計画、週案を作成しています。</li> <li>・言葉でうまく表現できない乳児には表情やしぐさで「何をしたいのか」「どうしてほしいのか」などを汲み取り、幼児の活動の場面では散歩に行きたい場所や、どんな遊びをしたいのかなど子どもからの意見を聞き、指導計画に反映しています。</li> <li>・乳児の様子から汲み取った意思や、幼児の意見を取り入れて製作活動を行ったり、もっとやってみようという気持ちを大切に指導計画を見直し・変更し子どもの主体性を育てるようにしています。</li> </ul>
<p><b>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園前の説明会后に園長、保育士、必要に応じて栄養士も加わり面接を行い、子どもの遊んでいる様子を観察して、面談シートに記入しています。</li> <li>・入園前に保護者に記入してもらう書類「お子様の状況について」「入園時児童家庭調査票」などから得た子どもの生育歴や家庭の状況を把握し、面談シートの情報と共に、職員会議やリーダー会議で職員が情報を共有し、日々の保育に活かしています。</li> <li>・入園時の慣らし保育の必要性を保護者に説明し、家庭環境や子どもの育ち、保護者の就労状況など個人差に配慮し、保護者の可能な日程で慣らし保育を実施しています。</li> <li>・0、1歳児の新入園児に対して、児童票に記入する担当職員は決めています。受け入れ時、個別に主担当者は決めていません。</li> <li>・クラスごとに一人一人の子どもの状況を話し合い、年間、月間指導計画、週案を作成しています。各指導計画は評価・反省欄を設け、見直しを行ったうえで次期計画につなげています。</li> <li>・歯ブラシの開始時期やトイレトレーニングなど、連絡ノートや、送迎時、面談での保護者の意向を聞き指導計画に反映させています。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0、1歳児は授乳やおむつ替えなど、できるだけ個別に担当する職員を決めて関わることが望まれます。また、新入園児の受け入れ時、入所している子どもに不安感を与えないよう配慮することが期待されます。</li> </ul>

### I-3 快適な施設環境の確保



- ・園舎内は月、週、毎日の単位で清掃箇所を決め、清掃チェック表を用いて遅番職員が中心となって清掃し清潔に保たれています。
  - ・保育室に臭いや調湿機能のあるタイルの使用や24時間換気システムを施し、冷暖房や空気清浄機、加湿器、扇風機などを季節に応じて使用し、快適な室内環境を整えています。
  - ・南側保育室は全面ガラス張りで、陽光を十分取り入れています。室温が高くなりがちなためカーテンなどで調節しています。
  - ・0歳児の保育室に沐浴室があり、ベビーバスを使用して、汗をかいた後やお尻洗いなどを行っています。また、温水シャワー設備があり、幼児は散歩で汗をかいた際や、プール遊びの後にシャワーを使用し体を清潔にしています。
  - ・0歳児の保育室は小人数で遊べるコーナーなどは確保されていません。
  - ・食事や遊び、午睡のスペースは同じ空間を使用していますが、活動後や食後その都度清掃して午睡の場を確保できるように工夫しています。
  - ・玄関の絵本コーナーや朝夕の合同保育を行う保育室は異年齢児が交流できる場となっています。
- <コメント・提言>
- ・低年齢児の保育室は、何人かずつの小集団で落ち着いて遊べる場所の確保が望まれます。

### I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児については、月間指導計画に基づいた月間個別指導計画を一人一人の子どもの状況に応じて全員作成しています。
- ・3歳以上の課題がある子どもについても、リーダー会議や職員会議でケースについて話し合い、課題や対応を共有して、個別指導計画を作成しています。また、保護者とは送迎時や個別面談で話し合い連携し、変更・見直した部分について説明しています。
- ・入園後は年齢に応じて期間を定め、項目ごとに発達状況を記録して個別の児童票にまとめています。
- ・毎月の発達チェック表と個人健康記録表に身長・体重や健診結果を記録し、日々の保育日誌に個別の記録欄を設け、子どもの成長・発達を記録しています。
- ・進級時には個々の児童票をもとに、配慮すべき事項とともに口頭で次期職員に伝え、小学校には5歳児担任が記載した保育所児童保育要録を送付しています。

**I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み**



- ・配慮を必要とする障がい児、アレルギー児、外国籍の子どもなどを毎年受け入れています。
- ・職員会議までに配慮を必要とする子どものケースについてクラスごとにまとめ、全職員でケース会議や園内研修を行って、適切な対応ができるようにしています。また、設置法人の臨床心理アドバイザーによる指導、助言を全職員で共有し、日常の保育に活かしています。
- ・障がい児の支援については、保護者からの情報、子どもの状況や発達、障がいの特性を把握した上で、発達に合わせた個別指導計画を作成しています。
- ・職員は設置法人の階層別研修で発達支援の研修を受講し、職員会議やリーダー会議で報告して学習する体制があり、統一された認識のもとに保育にあたるようにしています
- ・子どもの着替えや排泄時に身体の観察を行い、虐待が明白になった際は設置法人へ連絡の上、児童相談所、中区役所に通告相談するようにしています。
- ・入園時に保護者から、食物アレルギーに関する医師の診断書と指示書を提出してもらい、担任、栄養士と定期的に面談を行い、除去食を提供しています。また、食物アレルギーのある子どもはほかの子どもとは別色の記名したトレイを使用し、配膳の際は調理担当者と複数の職員が個々に子どものチェック表を確認して誤食防止に配慮しています。
- ・いろいろな国の保護者が在籍していることから、文化や生活習慣が違う場合があっても、通訳を交えて理解し尊重しています。
- ・運動会で万国旗に、英語教室では異なる言語に触れ、絵カード、絵本などで文化の違いを知るなど、いろいろな機会を通して子どもたちが理解できるよう配慮しています。

**評価分類**

**評価の理由（コメント）**


**I-6 苦情解決体制**



- ・要望・苦情を受け付ける担当者は主任、苦情解決責任者を園長としており、入園時の保護者会で「入園のご案内」に基づいて説明しています。また、第三者委員2名の氏名と連絡先を玄関受付に掲示し、直接苦情を申し立てるしくみがあります。
  - ・苦情対応についてのマニュアルが整備され、園だけで解決できない場合は、設置法人に相談する仕組みや、中福祉保健センター こども家庭支援課に相談し解決が図れるようにしています。
  - ・保護者からの要望・苦情はクレーム受理票に記録し、対応策などを職員間で話し合い改善に努めています。
  - ・日常的な保護者からの送迎時や面談などでの意見・苦情はその都度解決が図られていますが、対応した結果など記録が蓄積・整理されていません。
- <コメント・提言>
- ・日常的な保護者からの意見・苦情は小さいことでも記録し、アンケートなどの要望や意見とともにノートに記載し、サービスの質の向上につなげることが望まれます。



## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="103 226 427 257">Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> <div data-bbox="145 405 512 510" style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各保育室は人形、キッチンセット、おままごと用具、電車、積木、ボール、お絵かき帳、粘土、絵本など年齢に応じたおもちゃを子どもが取り出せる場所に置いてあります。各クラスで子どもの発達、興味、関心に見合っているか話し合い適宜おもちゃを入れ替えています。保育室はクッション性のある床を使用し、つかまり立ちや伝え歩きができるようにカラーボックスやサークルがあります。</li> <li>・走り回れる園庭がないため、天気の良い日は毎日発達に応じた距離の散歩に出かけています。リトミックや専門講師による体操教室を取り入れて運動能力が高まるように工夫しています。</li> <li>・子どもに人気の絵本を生活発表会の演目に取り入れ、子どもの意見を取り入れながらルールを変化させるなど、子どもの発想を大切に受け止めて保育に活かしています。</li> <li>・園庭のプランターで枝豆、カボチャ、なす、ジャガイモなどを栽培しています。カタツムリを飼育し、産卵の様子を見て感動し命を全うした際は土に葬るなど命を大切に育てる心を育てています。天気の良い日には近くの山下公園に出かけ、どんぐりの実を拾い銀杏の葉を集め蟬の抜け殻を見つけるなど自然と触れ合っています。</li> <li>・身体、歌、楽器、描画、製作などいろいろな方法で表現できるように年齢ごとの指導計画に組み込んで援助し、集大成を運動会や生活発表会で披露しています。</li> <li>・子ども同士のトラブルは基本的にはすぐには介入せず見守り、頃合いをみて双方の気持ちを汲み取って代弁し納得し合えるように援助しています。0歳児と1歳児、2歳児と3歳児、4歳児と5歳児はそれぞれ部屋を共有し、お互いの様子を日々目にし合い、異年齢での散歩、七夕などの合同製作、朝夕の時間帯の合同保育など、日常的に異年齢が関わり合う中で年長児は自然体で小さい子どもの世話をしています。</li> </ul> <p data-bbox="635 1037 914 1068">&lt;工夫している事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキング活動の「おにぎり作り」がきっかけとなり、おにぎりと給食を持って山下公園にミニピクニックに出かけ、ボール遊びや砂遊びなどで1日楽しく過ごす活動に広がっています。</li> <li>・近隣にある複数の公園（山下公園、アメリカ山公園、港の見える丘公園、横浜公園、赤レンガ倉庫、象の鼻パークなど）や消防署、ホテル、中央病院、港中学校などを写真付きで載せたお散歩マップを玄関と廊下に掲示して、どこへ出かけたのか子どもや保護者が確認できるように工夫しています。</li> </ul> <p data-bbox="635 1319 799 1350">&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃは子どもが自分で取り出せる場所に置いてありますが、0・1歳児が容易に取り出せるように箱の大きさや並べ方を工夫されることが望まれます。</li> </ul>

## Ⅱ-1 保育内容[生活]



・給食は子どもの状況に応じて量を減らして完食する達成感を大切に  
した援助をしています。また、様々な食材や味に触れるためにも苦手  
なものでも一口食べてみるように言葉をかけ、口にしたときはほめる  
ようにしています

・授乳のときは、家庭生活と連動できるように保護者と話し合っ  
て決めた時間帯を基本に、子どもを抱いて目をあわせ声をかけなが  
ら与えています。食事のときはマナーを伝えながら、子どものペース  
に合わせ、食べることが楽しいと感じるような声かけを心がけてい  
ます。トウモロコシの皮むきなどからカレー作りまで年齢に応じたク  
ッキング保育や野菜の栽培を通して食に関心や興味が深まるように  
支援しています。

・食器は強化磁器製の食器を使用し、子どもの成長に合わせてスプ  
ーン、フォーク、箸を使い分けています。秋田県の契約農家から直送  
されたお米を提供し、食材の産地を掲示して安全性に配慮してい  
ます。

・栄養士は全クラスの食事の様子を見回り子どもと会話を交わして  
喫食状況を把握しています。残食簿に残量や味付けなどを記録して毎  
月の給食会議で検討して献立や調理方法に反映しています。

・毎月、献立表とレシピを載せた給食だよりを配布し、給食サンプ  
ルを毎日展示しています。給食試食会の実施や子どもの誕生日に行  
う保育参加で保護者が子どもと一緒に給食を食べる機会を設けて家  
庭との食生活の連続性に配慮しています

・乳幼児突然死症候群への対応策としてうつぶせ寝を禁止し、タイ  
マーをセットして0歳児5分ごと、1歳児10分ごとに呼吸チェック  
をして記録しています。

・個々の子どもの排泄状況に応じてトイレに誘い、トイレでの成功回  
数が多くなった段階で保護者と連携してトイレトレーニングを進  
めています。おもらしをしてしまった時は他の子どもに分からない  
ように着替え片づけるなど、子どもの自尊心に配慮しています。

## Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



・既往症や予防接種状況は個々の健康調査票で把握し、職員に周知  
しています。

・子どもの健康状態に変化が見られたときは、0、1歳児は保育日誌  
の「家庭への連絡欄」に記載し、2～5歳児はクラスごとの「申し送  
りファイル」を活用して職員間で連携し、お迎え時に降園後の対応  
も含め子どもの様子を保護者に伝えています。

・1歳児から歯磨き指導を行い、虫歯予防デーにはペーパーサート  
を使って歯磨きの大切さや磨き方を伝えています。

・年2回の嘱託医による健康診断、年1回の歯科健診結果は個別の健  
康記録票に記録し、それぞれ書面で保護者に伝えています。

・事前に保護者から子どもの体調で気になることなどの相談を受け  
付け、健診時に嘱託医から得た回答も保護者に伝えています。また、  
健診日に欠席した子どもは、嘱託医のもとで後日受診できるように  
配慮しています。

・感染症マニュアルを策定し、「入園のご案内」に登園許可書が必要  
な感染症を明記して入園時に保護者に周知しています。

・保育中に感染症が疑われた場合は、速やかに保護者に子どもの状  
況を連絡し、保育室から離れ事務室で保護者のお迎えを待つよう  
に配慮しています。また、感染症が発生した際は速やかに玄関に掲  
示して保護者に注意を促しています。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



・衛生管理マニュアルは入社時研修で学び、毎年度初めの職員会議で読み合わせをしています。設置法人が見直したマニュアルの変更事項を職員間に回覧し、プールの開始前にはマニュアルを確認し合っています。また、食中毒予防研修を受講した栄養士が職員に内容を報告するなど衛生管理に努めています。

・曜日ごとに定めたおもちゃ、シーツ、タオル、トイレの消毒法を事務室に掲示し、それに基づいて消毒・清掃を行っています。遅番職員が中心となりマニュアルに沿って園内の清掃を行い、清掃記録表で確認しています。

・手洗い場には液体石鹸と紙タオルを設置し、2歳児から洗い残しの汚れを光らせる「手洗いチェッカー」を使用した手洗い指導を行い子どもに正しい手洗い方法を伝えています。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



・安全管理マニュアルを策定しています。事故や災害時のフローチャートを掲示し、災害時の対応方法についての園内研修を実施して全職員に周知しています。

・地震などを想定して棚を固定し、耐震シートや滑り止めマットを施して転倒防止を講じ、災害に備え食料、おむつ、水、ミルク、ランタン、ラジオなどを備蓄しています。



・全保護者・全職員の携帯電話番号とメールアドレスを登録して緊急時に一斉メール発信できる体制ができています。

・火災や地震を想定した訓練を毎月実施し、保護者の引き取り訓練、広域避難場所への避難訓練も行っています。



・保育に関わる職員16名のうち10名が赤十字の幼児救急法を取得しています。

・事故対応のフローチャートに従って対応し、子どものケガは軽傷でも必ず保護者に伝えています。ケガや事故はアクシデント報告書に記録し、再発防止策や改善策を検討して全職員に周知しています。



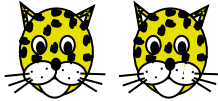
・玄関はオートロックシステムを施して不審者の侵入を防止し、不審者対応訓練を年に1度実施しています。警備会社と契約して緊急通報システムを整備し、園外活動時には警備会社の専用端末機を携帯しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに対して大声で怒鳴るなど威圧的な言葉遣いや自尊心を傷つけるような対応をしないことを、職員会議で話し合っています。職員が子どもに注意をする場合は、感情的にならないように一呼吸おいてから子どもに分かりやすい言葉で伝えるように努めています。また、子どもの人格を辱める保育を行っていないか、ケース会議や自己査定の際に振り返っています。</li> <li>・せかしたり強制することのないように、行動に時間がかかる子どもには予め終了の時間を伝えて、時間を意識していくことを教えるなど、子ども一人一人の性格や個人差を受け止めて対応するように努めています。</li> <li>・子どもと1対1での話し合いが必要な時は、プライバシーに配慮しながら落ち着いて話ができる事務室や避難ブースなどを使用しています。</li> <li>・職員は入社時に個人情報や守秘義務について学び誓約書を提出し、実習生にも守秘義務の誓約書を交わしています。個人情報管理規定を策定して全職員に周知し、子どもの写真の取り扱いについては保護者の承諾を得ています。個人情報に関する記録類は全て事務室内で施錠管理しています。</li> <li>・名簿はアイウエオ順、グループ分けはくじ引きなど、役割、持ち物、順番、グループ分けなど性別による区別は行っていません。製作時の画用紙や絵の具、折り紙などは一人一人が好きなお色を選んでいきます。</li> <li>・子どもに性差を意識づけるような声かけをしないように年度初めの職員会議で話し合い、気になる言葉かけに気づいた際は職員間で確認し合っています。</li> </ul>
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園説明会、保護者全体会、クラス懇談会で保育方針を説明し、行事後アンケートなどを通して保育方針が保護者に理解されているかどうかを把握しています。送迎時には保護者に声をかけることを心がけて子どもの様子を話しあえるような雰囲気作りに配慮しています。0～2歳児は連絡ノートで園と家庭の生活状況の情報交換を毎日行っています。</li> <li>・保護者が参加しやすいように1週間の期間を設けた個人面談とクラス懇談会を年2回行っています。保護者からの相談はプライバシーに配慮して行い記録してあります。</li> <li>・園日より、クラス日より、クラスノートなどで子どもの様子を伝えていきます。日常保育やイベント時の写真撮影をして月に1度、保護者に販売しています。</li> <li>・保育参観は年に1週間の期間を設定して年2回実施し、子どもの誕生日の1日保育参加や保護者参観・参加型の行事も実施しています。</li> <li>・組織的な活動を行う保護者団体はまだ結成されていませんが、保護者が自主的に行った卒園式の謝恩会に保育室を提供し、保護者の要望を受けて子ども服のリサイクルバザーの場所を提供するなど、保護者の自主的な活動には協力し連携を図っています。</li> </ul> <p>&lt;工夫している事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の保育参観、保育参加・参観行事を行うほか、2～5歳児の誕生日に朝の会から給食まで一緒に過ごす1日保育参加を受け入れ、祖父母を招待するふれあい会を実施し、希望者にはハロウィンやクリスマスなどの行事にも参観可能とするなど積極的に家庭との交流を図っています。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が自主的に組織を作り、よりコミュニケーションが図られることが期待されます。</li> </ul>

## 評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山下公園内にある子どもの遊具や遊ぶスペースを備えた、子育て応援商業施設（コンビニエンスストア）で毎月第3水曜日に「りんく広場」を開催し、パネルシアター・絵本読み・手遊び・製作活動などを提供しています。</li> <li>・平成25年の中区民祭「ハローよこはま」では園長が実行委員となり職員と共に子どもの遊びのコーナーを担当し、園の広報に努め関係機関や地域の団体と連携を図っています。</li> <li>・園長が中区園長会議で得た情報をリーダー会議や職員会議で報告する際に、地域の子育て支援ニーズに関する情報を共有し話し合いをしています。</li> <li>・地域住民向けに絵本を貸し出す、中区の「グランマ保育園事業」に参加しています。「りんく広場」を毎月第3水曜日に開催し絵本の読み方や手遊びなど、子どもとの関わり方を地域の親子と遊びながら伝えていますが、講座や研究会の開催には至っていません。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「りんく広場」で地域の親子に遊びの指導をして地域支援を行っていますが、「グランマ保育園事業」を積極的に地域に発信して利用者を広げる取り組みや育児講座などの開催が望まれます。</li> </ul>
<p><b>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「りんく広場」会場である子育て応援商業施設（コンビニエンスストア）に育児相談に応じることを記載したチラシを掲示して相談に応じ、園見学者からの相談も受けていますが、定期的な相談日を定めた相談事業は行っていません。</li> <li>・近隣の医療機関、中央児童相談所、中区役所、中部地域療育センター、系列保育園の連絡先をリスト化して職員が共有し、相談内容に応じて連携できる体制ができています。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に出向いて毎月行う「りんく広場」で育児相談を受け園見学者の育児相談に応じていますが、定期的な相談日を設けて専門性を活かした育児相談を積極的に行い、地域に貢献されることが望まれます。</li> </ul>




## 評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の行事に小学校や町内会に案内状を送付しています。夏祭りは地域の人に参加し、運動会には小学校児童が競技に参加しました。</li> <li>・幼・保・小連携会議には年5回、園長と5歳児担任が出席して情報交換を行い、小学校児童との交流を図っています。5歳児は学校探検で小学校を訪問したり、1年生のクラスでドングリを使って製作するなど児童と交流しています。</li> <li>・公園への散歩時は近隣の親子と挨拶を交わし、ドングリ拾いなどを一緒に行っています。また、横浜港に入港する大型客船の船内を見学したり、山下公園では地域の親子と一緒に遊び、友好関係を築いています。</li> <li>・地域にある横浜人形の家や神奈川芸術劇場、山下公園、子育て応援商業施設（コンビニエンスストア）などを利用しています。横浜人形の家では生活発表会の行事を行い、運動会は近隣小学校を利用しています。</li> <li>・散歩先の公園では他園の子どもと日常的に交流し、5歳児は中区主催の「年長組あつまれ！保育園対抗駅伝大会」に参加し多くの園児と交流しています。</li> </ul>
<p><b>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市や設置法人のホームページで保育方針や行事等について情報提供を行い、園のパフレットを子育て支援拠点「のんびりんこ」や区役所に置き、自由に持ち帰れるようにしています。</li> <li>・幼稚園・保育園サイト、「まみたん園ナビ」に園の方針や園内風景の写真を掲載し、情報を提供しています。</li> <li>・利用希望者の問い合わせがあった場合は、園の理念、方針等が記載されているパフレットをもとに園長、主任が対応し、説明しています。また、利用希望者には保育に支障がない限り、希望に沿うよう都合に合わせて実施しています。その際、子どもたちの様子が見学できるよう案内をしています。</li> </ul>
<p><b>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務マニュアルにボランティア受け入れガイドラインがあり、職員会議で考え方や方針について園長が説明し周知しています。</li> <li>・受け入れ担当は園長が行い、受け入れ時にガイドラインに沿って説明しています。高校生のボランティア2名を受け入れましたが、意見を聞く機会は持っていません。</li> <li>・実習生受け入れガイドラインに基づき、受け入れ時に園の方針や守秘義務、個人情報保護などについて説明し、誓約書の提出を受けています。</li> <li>・実習生受け入れにあたっては職員会議で氏名や期間、実習の意義などガイドラインに沿って説明し、実習に入るクラスなどを話し合っています。保護者には園だよりで知らせ、子どもたちには職員が説明しています。</li> <li>・実習に入ったクラスの担任が日誌の書き方の指導や意見交換を行い、アドバイスしています。実習最終日には園長や主任、担当者などで反省会を行い、実習生の意見や反省を聞いています。実習生の気付きや成長によって職員も元気をもらい、保育を行う上での参考になっています。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアからの意見を聞く機会をもち、園運営に活かすことが望まれます。</li> </ul>

## 評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>V-1 職員の人材育成</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長は職能や経験年数による人員配置となるよう職員の組み合わせに配慮し、欠員が生じた場合は設置法人に補充を依頼しています。</li> <li>・設置法人共通の理念・方針に基づき「保育士人材育成ビジョン」を作成し、新卒、途中入社や中堅、主任など階層別に研修を実施し育成しています。</li> <li>・設置法人の担当部門が研修計画を作成し、職員が個別の研修計画を作成して必要な研修を受講しています。受講後はレポートを作成して職員会議で報告し、研修内容をクラス運営に反映させています。</li> <li>・職員は年度初めに成長目標や研修目標を設定する「個人別年間研修計画」を作成し、半年ごとに反省・見直しを行い、園長と面談して達成度を評価し次期の計画につなげています。</li> <li>・非常勤職員も常勤職員と同じ業務マニュアルの説明を受け、理解しています。</li> <li>・非常勤職員の経験年数や資格などを考慮し、職員との組み合わせに配慮してシフトを調整しています。</li> <li>・非常勤職員も研修に参加できることになっていますが、時間的制約があるため園長、主任、リーダーが情報を伝え、保育に関する助言、指導を行っています。</li> <li>・非常勤職員の指導はクラスリーダーがあたり、園長、主任などとともに常にコミュニケーションを図り、指導、助言を行っています。</li> </ul>
<p><b>V-2 職員の技術の向上</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の職員が年2回、「安全意識」や「保育力」、「研修意欲」など、階層別の査定項目をもとに自己査定を行い、毎年受審する福祉サービス第三者評価の評価基準に沿って自己評価を行っています。また、園長会で報告された他園の改善事例を園に持ち帰り、職員会議やリーダー会議で話し合い、サービスの質の向上を図っています。</li> <li>・設置法人統一書式の保育日誌や指導計画に評価・反省欄を設け、保育の計画で意図したねらいにに対して、目先の判断だけではなく、その日の子どもの姿から、子どもが意欲的に取り組んでいるか、活動の中でどう成長したかなどを記録して評価、反省を行っています。</li> <li>・日々の子どもの姿や保育実践の反省を通して、クラスで話し合い、対応の仕方を改善し、次期の計画に反映させています。</li> <li>・職員はスキルや実践について自己評価し、自己評価から、保育所としての課題について話し合い改善に向けて取り組んでいます。</li> <li>・福祉サービス第三者評価受審結果は公表していますが、保育所としての自己評価は公表には至っていません。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所として自己評価をした結果は方法を工夫して公表することが望まれます。</li> </ul>
<p><b>V-3 職員のモチベーションの維持</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人が作成した「保育士に求められる役割と能力」に職制と経験に応じた役割を期待水準として明文化しています。</li> <li>・各クラスの運営は担当職員が責任をもって行い、子どもの状況によって判断して保育を進めています。経過や結果については園長に報告・連絡・相談を行い、最終的な責任は園長が担っています。</li> <li>・行事後に職員からもアンケートを取り改善点の報告を受け、行事担当職員がまとめ、次回に活かすように話し合っています。</li> <li>・年2回、園長が職員に面談し、職員の意見や要望を聞いています。また、必要に応じてエリアマネージャーと話し合う機会を設けて意見を聞いています。</li> </ul>

## 評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>VI-1 経営における社会的責任</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人の就業規則に倫理規程、服務規程を明記し、職員が不正・不適切な行為を行わないよう入社時研修で周知しています。また、コンプライアンス委員会を設置し、不正があった場合の連絡先などを職員更衣室に掲示し、直接通報できる仕組みを職員に周知しています。</li> <li>・設置法人のホームページに経営・運営状況を公開しています。</li> <li>・設置法人の園長会で、他園の不正、不適切な事例などを検討し、園に持ち帰ってリーダー会議や職員会議で話し合い、不適切な行為を行わないよう職員の意識を高めています。</li> <li>・環境への取り組みとして、夏まつりの際は保護者や子どもに箸やコップを持参してもらいゴミ減量化に努め、エコキャップの収集や空き容器、牛乳パックなどの廃材を利用した製作を行うなど、リサイクルに取り組んでいます。</li> <li>・園内に節電の啓発ポスターを掲示し、電気をこまめに消し、未使用な家電はコンセントを抜くなど省エネに努めています。</li> </ul>
<p><b>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・方針・園目標を玄関に掲示し、職員全員に理念・方針を記載したパンフレットを配布して確認できるようにし職員会議などで周知しています。また、園長は年2回の職員への面談で、理念・方針・園目標が理解出来ているかを確認しています。</li> <li>・保護者からアンケートを募り、意見交換して決定した事案についての目的や経緯などは、運営委員会や懇談会で保護者の納得がいくように説明しています。</li> <li>・設置法人作成の「保育士人材育成ビジョン」があり、階層別における主任クラスの職員を育成するプログラムが用意されています。また、年4回中区主任研修が計画され主任が受講しています。</li> <li>・主任の業務分担が決められており、職員の勤務状況や個々の健康状態、どのクラスへの支援が必要かなど把握して業務にあたっています。また、個々の職員とコミュニケーションを図り、体調に配慮して職員の悩みや相談に応じています。</li> </ul>
<p><b>VI-3 効率的な運営</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営に影響のある情報に関しては設置法人が収集し分析しています。園長は新聞やニュース、近隣からの情報等を収集し、職員会議で伝えています。</li> <li>・重要な情報は設置法人の園長会で議論し、職員会議やリーダー会議で共有して園全体の課題とし、改善すべき課題について改善策を話し合い、全職員に周知しています。</li> <li>・昨年度、全職員で中・長期の目標について話し合い園目標や、園の方向を示した5年長期計画と職員の資質向上や食育の推進などを盛り込んだ中期計画を作成しています。</li> <li>・設置法人は外部環境の変化に応じて組織の在り方を検討し、マニュアルの改訂や職員研修計画について常に見直しを行っています。</li> <li>・次代の組織運営に関し、設置法人の幹部職員は常に後継者の育成について検討しています。</li> <li>・設置法人は、保育関連の委員会に参加して、運営について意見を収集しています。</li> </ul>



# 利用者家族アンケート

施設名：アスク山下町保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

## 結果の特徴

### ◇ 調査対象

調査時点での在園児数64名、全保護者57家族を対象とし、回答は35家族からあり、回収率は61%でした。

### ◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接お渡しして、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れていただき、密封のままの状態ですべて評価機関が回収しました。

### ◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答が100%（満足71%、どちらかといえば満足29%）と、非常に高い満足度となっています。

### ◇ 比較的満足度の高い項目

1) 入園した時の状況について、「園の目標や方針についての説明」「お子さんの様子や生育歴などを聞く対応」についての肯定的回答は、97%の高い評価でした。また、年間の保育や行事についての説明には100%の非常に高い評価でした。

2) 日常の保育内容について「遊び」では、クラスの活動や遊びについてお子さんが満足しているか、戸外遊びを十分しているか、おもちゃや教材が自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいか、遊びを通じて健康づくりの取り組みがされているかの設問には、いずれも97%の肯定的回答であり、高い評価となっています。

「生活」では、給食の献立内容について、基本的な生活習慣の自立に向けての取り組み、体調への気配りについての設問には、いずれも97%の肯定的回答であり、高い評価となっています。

3) 園と保護者との連携・交流について、園だよりや掲示などによる園の様子や行事に関する情報提供については100%の非常に高い評価を、保護者からの相談事への対応には95%の評価を得ています。

4) 職員の対応について、「あなたのお子さんが大切にされているか」の設問には、97%の高い評価となっています。

### ◇ 比較的満足度の低い項目

1) 感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について否定的回答が17%（どちらかといえば不満14%、不満3%）ありました。

2) 送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については、15%の否定的回答（どちらかといえば不満9%、不満6%）がありました。

## 調査結果

### ■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	29%	40%	11%	17%	3%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

#### 付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	79%	21%	0%	0%	0%	0%

### ■施設のサービス内容について

#### 問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	69%	11%	3%	0%	17%	0%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	66%	19%	9%	0%	6%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	60%	37%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	60%	37%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	57%	37%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	54%	32%	14%	0%	0%	0%
	その他:					

#### 問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	57%	43%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	54%	40%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

#### 問4 日常の保育内容について

##### 遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	74%	23%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	71%	26%	0%	3%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	71%	26%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	54%	40%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	71%	23%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	63%	34%	3%	0%	0%	0%
	その他:					

##### 生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	86%	11%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	80%	11%	6%	3%	0%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	71%	26%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	69%	25%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	66%	19%	3%	6%	6%	0%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	69%	28%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	69%	20%	11%	0%	0%	0%
	その他:					

### 問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	34%	55%	11%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	37%	57%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	54%	37%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	57%	23%	14%	3%	3%	0%
	その他:					

### 問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	57%	34%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	80%	20%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	57%	34%	6%	3%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	51%	34%	9%	6%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	63%	31%	3%	3%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	74%	21%	5%	0%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	80%	11%	3%	0%	6%	0%
	その他:					

### 問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	71%	26%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	71%	20%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	77%	14%	0%	0%	6%	3%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	66%	22%	9%	0%	3%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	63%	31%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

### 問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	71%	29%	0%	0%	0%

# 観察方式による利用者本人調査

平成26年9月4日・10日

施設名：アスク山下町保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

## ◇0歳児

### 散歩

2台のお散歩車にそれぞれ子ども4名が乗り、職員3名が付き添ってお散歩です。職員が点呼をとります。「〇〇くん△△ちゃん・・・8人です 山下公園に行きましょう 出発！」と歩き始めました。道路を渡る際は一人の職員が道の真ん中に出て「ピッ」と笛を吹き、2度渡るともう公園に到着です。犬を見つけた子どもたちは「ワンワン」と言ったり「ウーウー」と発しながら指差すなど興味津々です。

職員が安全な場所を確認してからお散歩車を止め、子どもの行動範囲内に危険なものがないかチェックした後に、子どもは靴を履いて芝生の上に降りました。「あんよできるかな？ 歩こう 歩こう」とリズムカルな職員の声掛けに誘われて、子どもたちはヨチヨチ歩いたりハイハイを始めます。職員がシャボン玉を吹き始めると「ウファー」「キヤー」と発しながら子どもたちはシャボン玉を追いかけたり、風に舞うシャボン玉を見て手を叩いて喜ぶ子どももいます。まだ歩けない子ども2人はシートに座って友だちの遊ぶ様子を見たり、散歩中の人から「かわいい」と声をかけられ「バイバイ」と手を振って応えています。

### 自由遊び

お散歩から戻り、食事までの自由遊びの時間です。転倒防止のゴムが邪魔してブロックの入った箱が出せない子どもの様子を見て、職員が「はい どうぞ」とゴムを外して、箱を出しやすいように少し手前に引きます。子どもが箱からブロックやボールを出して遊び始めると、ほかの子どもがヨチヨチ歩いたりハイハイしながらおもちゃ箱に近寄り、好きなおもちゃを取り出して遊び始めます。ボールをポイッと投げた子どもに職員が「やさしくね」と声をかけます。職員は子どもたちの様子を見守りながら声をかけたり遊びに加わったりしています。読んで欲しいという表情で子どもが職員に絵本を手渡し、膝に乗って絵本を読んでもらっていると、周りで遊んでいた子どもたちが寄ってきて職員を取り囲み、一緒に絵本を楽しみました。絵本が終わると「△△ちゃんは △△ちゃんはどこですか？ ここです ここです ここにいます」と手遊びが始まりました。

### 食事

子どもは3カ所のテーブルに分かれて座っています。それぞれのテーブルには職員が子どもの向い側や横に座って「〇〇ちゃん 見て見てお芋だよ」「おいしいね」など声をかけてい

ます。子どもはスプーンや手づかみで食べたり、職員に「△△ちゃん アーン」と食べさせてもらったりしています。手が止まった子どもに職員が「おしまいにしますか？」と声をかけ、子どもが首を振ると「食べられるの？ワーすごい」と励まし、子どもは再びスプーンを口に運び始めます。「減らそうか？」「寄せ寄せしようか？」など職員に声をかけてもらい手を添えてもらいながら、自分のペースで食事が進んでいきます。

## ◇1歳児

### シャワーの準備

「靴下 脱いでね」「〇〇ちゃん こっちだよ」と職員に声をかけられ、散歩から戻った子どもが自分で脱いだ靴下を靴下箱にしまっています。部屋に戻ると「おもちゃ これでもいい？」と言いながら職員が箱を逆さにしておもちゃを広げます。子どもはボールを転がしたり、ボールをカップに乗せて「アイス」に見立てて遊んでいます。職員の「シャワシャワするよ」の声かけで子どもは順番に服を脱がせてもらい、シャワーで汗を流してもらいます。自分でシャツを脱いで準備している子どももいます。

### 食事

子どもはテーブルを挟んで向かい合って座り、食事を待っています。職員が手遊びを始め、子どもが集中してくると「トーマスとキリンの本よみます」と絵本を読み始めました。食事の準備も整い、職員の「絵本バイバ～イ 給食たべるひと」の声に子どもたちは「はい」と答え、手を挙げます。手をパチパチ叩きながら給食の歌をうたい「いただきます」「めしあがれ」の挨拶をして食べ始めました。子どもはスプーンや手づかみでカレーやサラダを口へ運ぶことに夢中です。「おいしい？」「おかわりする？」などと声をかけながら一人一人の子どもの様子を見回っている職員に、子どもは「はい」とお皿を差し出してカレーのお代わりをもらっています。

### 排泄

マットの上に寝転んで職員にお尻をきれいにしてもらった子どもが立ち上がり、職員の手を借りてオムツをはいています。立ったまま取り替えてもらう子どももいます。

オムツが濡れていない子どもは、オムツを脱ぐとそのままトイレに行って便座に座り、用を済ませて自分で水を流して戻って来ました。

### 午睡

カーテンを閉じ照明を落とし薄暗くなった部屋で子どもが布団に横になっています。静かな音楽が流れる中で、眠りにつけない子どもは横に座った職員に背中をさすってもらったりトントンしてもらっています。職員は連絡帳の記録をしながら、決まった時間に席を立て子どもに近寄り、呼吸や体位の確認をしています。

## ◇2歳児

### 運動会の練習

保育室の中央に子どもたちが集まり、両手にポンポンをつけて座っています。「はい 立ちましょう」との職員の声かけに、その場で立って職員の方を向いています。職員がCDをセットすると「ピーヒャラ ピーヒャラ」と音楽が流れ、子どもたちは音楽に合わせて両手をキラキラさせて踊りだしました。職員が音楽の途中で「片手をあげて」「そうそう」、「まわって」、「とんで」と声かけすると、それぞれ後ろを向いたり、両手をぐるぐる回転させ、ポンポンをつけている両手をキラキラさせたり、ジャンプしたりと笑顔で踊っています。

途中で座りこんでしまった子どもは職員に抱っこされて、みんなの中に入り、また元気に踊りだしました。子どもたちは音楽に合わせて、歩きながらポンポンをつけた両手をふり、体を動かし満足そうな表情です。

### シャワー準備～自由遊び

散歩から戻り子どもは順にシャワーを浴びます。職員は「次は だれかな?」「自分でお着替え用意できた?」と声をかけ、子どもは服を脱ぎ始めます。「できない」と言ってきた子どもに、職員は少し手を添えています。シャワーを終えた子どもに、職員は「おむつはけるかな?」と促します。順番を待つ間、タオルをマントのように首に巻いてポーズを決め、歌ったり、人気の映画の主人公になって遊び続ける子どもたちに、職員は映画の主人公の名前で「エルサさんたち シャワーですよ」と誘い、子どもは「はい」とシャワーに向かいました。

### 紙芝居・午睡準備

布団を敷いた隅に子どもが座り紙芝居が始まりました。「赤ずきんちゃん」の紙芝居が終わり「山下公園にはおおかみさん出るかな? お昼寝終わったらオーノー先生がくるよ」との職員のことばに「オーノー」と子どもが一斉に発します。子どもたちはオーノーが口癖の英語の先生が来るのを楽しみにしています。

職員の「寝るよ～」の言葉に子どもは布団に横になります。「電気消すね」と言って部屋を薄暗くすると間もなく音楽が流れてきました。子どもたちは紙芝居のお話に思いがっぴいで「ね～ね～ おばあちゃんのおめめ どうしておおきくなったの?」など、しばらく子ども同士で赤ずきんちゃんの話が続きます。

## ◇3歳児

### 遊び

保育室では子どもたちがブロック遊びや、お絵かき、おままごとなど好きな遊びを見つけて遊んでいます。

ブロックのコーナーでは、「これ車だよ 大きい方が強いんだよ」、「3人でバトルしよう」と、数人の子どもたちがブロックで作った車やカブトムシで戦いごっこをしています。職員は遠くから見守って時折声をかけています。おままごとコーナーではまな板の上でパンを切っている子ど



もや、人形を抱っこしてミルクをのませる子ども、ミカンをお皿に入れて「食べてくださいーい」と友達にさし出す子どもなど、それぞれ楽しそうに遊んでいます。

職員から「ひまわり組さん 時計の針が7になったからお片付けしようね」といわれて、子どもたちはおもちゃの果物やお人形、ブロックなどをそれぞれ決められた棚に片付けました。

## 食事

子どもたちはテーブルに友達と向かい合って座り、一人一人、職員からトレイをもらっています。職員は野菜を盛り付けたお皿を子どもに見せて「これくらい食べられそう?」、「〇〇ちゃん どうする? 減らす?」と聞いて配膳しています。子どもは「いいよ」、「もう少し」と答えて調節してもらい、全員の子どもの配膳が済みました。職員から「もも組さん(同室隣のクラス2歳児)のお友達のお誕生日を一緒に祝いしてあげよう」と声かけがあり、一緒に「ハッピーバースデー」の歌を歌い、「いただきます」をして食べ始めました。子どもたちは「お皿を押さえて食べてね」、「あつまれしてあげようか」、「ピカピカだね」などと職員から声をかけられ、会話を楽しみながら全員が箸を使って食べています。

## ◇4歳児

### 運動会の練習

保育室に子どもたちがフラフープをもって1列に並び、職員の「右 左 右 左」の掛け声に合わせて左右に振る練習をしています。今度はお腹の前でフラフープをもってジャンプの練習です。両足で跳んでフラフープをまたぎ、両手でフラフープを持って回転させ、またジャンプと、みんな真剣な表情で練習しています。職員が「できるかな ママとパパに出来たよって見せてあげられるように頑張るね」、「長い針が8の所まで練習です」というと、保育室いっぱいに広がってそれぞれ練習を始めました。子どもたちは自分で好きな場所に移動し「回してびよん」、「足を揃えてびよん」と声を出しながら練習しています。職員が「両足が揃っている方がかっこいいよ」というと、自分の足元を見てそろえています。

練習が終わると「目ざせ3回!」と職員が言い、子どもたちは3人ずつみんなの前に立ち、練習の成果を見せます。ちょっと照れながらも真剣です。うまくジャンプできると途中で笑顔になり、職員から「すごい すごい」、「上手」とほめられ、うれしそうです。全員の子どもの前でジャンプを成功させ「もう1回 やってみたい」との声が上がっていました。

## 食事

午前中の活動が終わって手を洗い、食事の準備を始めています。職員がテーブルを並べると、子どもたちは自分でコップを用意し、テーブルに向って座ります。エプロンとバンダナをつけた2人の当番の子どもが、座っている子どもに食事用のトレイを配ります。

職員が「ご飯にカレーがついているのがいい人」と、手をあげた子どもに配っていきます。当番はスプーンを配り、「スプーンのない人 手をあげて」「みんな ありますか」と全員に確認しています。職員が最後にお茶を配り、「今日の献立を発表します カレーライス トマ

ト卵スープ 胡麻ドレッシングサラダ バナナです」と説明し、当番が前に立ってみんなで給食の歌を歌います。「みなさん ご一緒にいただきます」と挨拶をして食べ始めました。「お野菜も食べるんだよ」、「今日は 時計の長い針が4の所で終わるように頑張ってるね」と職員が声かけすると、子どもたちは「はい」、「カレーにお野菜入っているね おいしい」、「お代わりもするよ」といいながらおいしそうに食べています。先ほどのフラフープのジャンプの話や、園までくる方法など会話が弾んでいます。おおよその子どもが、完食し、「ごちそうさま」をして片付けを始めました。子どもたちは順番に並び、長く並べたテーブルの中央にトレイを置き、同じ食器を重ねて片付けています。

## ◇2、5歳児

### 戸外活動

5歳児の子どもたちは水筒をもって帽子をかぶり、玄関に集合しています。「今日は もも組さんも一緒に山下公園に行きます ゆり組さんは もも組さんと手をつないでください」と職員から話を聞き、5歳児の子どもが2歳児の子どもを呼んで、一緒に手をつなぎます。5歳児の子どもと手をつなぐのが嫌だといって離れてしまった子どもには職員が話を聞き、5歳児の子どもにも納得してもらって、職員と手をつないで出かけました。

途中で手をあげて信号を渡り、山下公園に着くと、「ボールは仲良く使ってください 道に転がってしまったら勝手に取りにいかず 先生に教えること」と約束して、それぞれ好きな遊びを見つけています。園から持ってきた、カラーコーンを置いてサッカーをする子どもや、ドングリを見つけて拾い、ビニール袋にたくさん集めている子どもなどみんな目を輝かせて遊んでいます。ドングリ拾いに訪れた親子も一緒に会話しながら拾っています。

保育参加で訪れている保護者が「リレーやる人いる?」、「白いボール持ってきてー」、「ここがゴールですよ」と子どもたちと一緒に活動しています。子どもたちは園から持ってきたリングのバトンを用意し、ピンクチーム、黄色チームを作ってリレーを始めました。2歳児も5歳児も一緒に「よーいどん!」、「イエー 早いね」、「しっかりコーンを回ってきてね」という職員や保護者の声に、「回ってないよー」、「2回やって ずるいよ」などと子どもたちも応援し、走る番になると真剣な表情で走りバトンを渡しています。ずっと参加しないで見ていた子どもも、保護者の誘いに、途中から参加し笑顔で走っていました。

## 平成 26 年度第三者評価事業者コメント（アスク山下町保育園）

### 【受審の動機】

自己評価に加え、園を客観的に見ていただくことでこれまでの園運営を振り返ることができ、また今後の課題を見出すことができるという理由から受審させていただきました。

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を元に保護者のニーズを把握しながら、日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。評価の際は、今まで行ってきた保育に加え、以前にご指摘いただいたことがどの程度まで改善できているかを課題として捉えました。

今後も子どもたちの安全を第一に、常に利用者のニーズに耳を傾け、親しまれる園でありたいと考えております。

### 【受審した結果】

自己評価を行うことで職員一人一人が自身の保育を振り返ることができ、課題を明確にできる良い機会となりました。全職員が「保育」を見直すことで、運営方針や理念、今後園の目指していく方向性を再確認することができ、職員一人一人の意識を高めることにもつながりました。今回評価していただいた点については、今後もさらに良いサービスを提供できるように取り組んでいきます。

今後の課題としては、特に0・1歳児保育室の見直しを行い、子どもたちが主体的におもちゃを取り出して遊べるような並べ方や落ち着いて過ごせるようなコーナー設定を考えていきます。また、新入園児受け入れの際には、子どもたちが保育者との信頼関係を築き、安心してその後の園生活を送れるように配慮してまいります。

今後も「利用者が本当に求める保育サービス」を提供していけるよう、評価結果を真摯に受け止め、職員一丸となって努力してまいります。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。